

| 授業科目 | 成熟期看護方法7 (老年期生活援助看護方法) Nursing of Adults 7 Nursing of Elderly in Daily Life | 責任教員 | 古川 直美 | 単位数 | 1 | 科目区分 | 4063 | | |
|-------|---|---|-------|-----|----|---------|------|-----------------------|---|
| | | | | 時間数 | 30 | 開講セメスター | 必修 | 科目履修 | 可 |
| 目的と目標 | <p>目的：加齢に伴う老性変化による老年期にある人の生活の変化に対する反応を理解し、日常生活行動に援助が必要な老年期にある人とその家族への看護方法を理解する。</p> <p>目標：1. 加齢に伴う老性変化による老年期にある人の生活機能の変化と生活への影響および、それらに対する反応を理解する。 2. 老性変化により生活機能の低下・障害を来し、日常生活行動の援助が必要な老年期にある人とその家族への看護の役割と具体的援助方法を理解する。</p> | | | | | | | | |
| 回数 | 学修課題 | 内容並びに方法 | | | | | | 担当教員 | |
| 1 | 導入 | <ul style="list-style-type: none"> 本授業を学習する必要性・意義と授業の構成・進め方等のガイダンス (講義) | | | | | | 古川 | |
| 2・3 | 老性変化としての呼吸機能の変化と看護 | <ul style="list-style-type: none"> 呼吸機能の変化とそれが健康生活に及ぼす影響 呼吸機能の低下と健康生活への影響を把握するためのアセスメント 呼吸機能の低下に応じた生活活動調節への援助 (講義) | | | | | | 浅井 | |
| 4・5 | 老性変化としての栄養・代謝機能の変化と看護 | <ul style="list-style-type: none"> 栄養・代謝機能の変化とそれが健康生活に及ぼす影響 栄養・代謝機能の低下と健康生活への影響を把握するためのアセスメント | | | | | | 古川 | |
| 6・7 | 老性変化としての排泄機能の変化と看護 | <ul style="list-style-type: none"> 栄養・代謝機能の低下と食生活の援助 *脱水の予防的看護 (講義) 排泄機能の変化とそれが健康生活に及ぼす影響 排泄機能の低下と健康生活への影響を把握するためのアセスメント 排泄機能の低下と日常生活の援助 *排泄機能が低下した場合の排泄方法について体験学習を事前に行う *便秘・下痢・便失禁、排尿困難・尿失禁の援助 (講義) | | | | | | 宇佐美 | |
| 8 | 老性変化としての感覚機能の変化と看護 | <ul style="list-style-type: none"> 感覚機能の変化とそれが健康生活に及ぼす影響 感覚機能の低下と健康生活への影響を把握するためのアセスメント 感覚機能の低下とコミュニケーション活動の援助 (講義) | | | | | | 堀田 | |
| 9・10 | 老性変化としての身体運動機能の変化と看護 | <ul style="list-style-type: none"> 身体運動機能の変化とそれが健康生活に及ぼす影響 身体運動機能の低下と健康生活への影響を把握するためのアセスメント 身体運動機能の低下と日常生活動作の援助 *転倒予防と転倒による骨折予防の援助 (講義) | | | | | | 堀田 | |
| 11 | 老性変化としての防衛機能の変化と看護 | <ul style="list-style-type: none"> 防衛機能の変化とそれが健康生活に及ぼす影響 防衛機能の低下と健康生活への影響を把握するためのアセスメント 防衛機能の低下と感染予防活動の援助 *高齢者ケア施設における感染予防 (講義) | | | | | | 堀田 | |
| 12 | 老性変化としての精神機能の変化と看護 | <ul style="list-style-type: none"> 精神機能の変化とそれが健康生活に及ぼす影響 精神機能の低下と健康生活への影響を把握するためのアセスメント 精神機能の低下予防・維持への援助 (講義) | | | | | | 宇佐美 | |
| 13・14 | 老性変化としての生活機能の変化のアセスメントと援助方法 | <ul style="list-style-type: none"> 事例の老性変化としての生活機能の変化を統合してアセスメントし、援助を検討する (グループワーク) | | | | | | 堀田 古川 宇佐美 浅井 | |
| 15 | まとめ | <ul style="list-style-type: none"> 学習の習得状況の確認、振り返り (試験・講義) | | | | | | 古川 宇佐美 浅井 堀田 | |
| 評価方法 | 授業への参加状況・提出課題 (25%)、試験 (75%) | | | | | | | | |
| 参考文献 | <p>指定図書：正木治恵、真田弘美編：看護学テキストNiCE 老年看護学概論、改訂第3版、南江堂、2020.</p> <p>参考図書：正木治恵編：パーフェクト臨床実習ガイド 老年看護、第2版、照林社、2017.</p> <p>太田喜久子編著：老年看護学 高齢者の健康生活を支える看護、第2版、医歯薬出版、2017.</p> <p>山田律子、井出訓編：生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 第4版、医学書院、2020.</p> <p>泉キヨ子、小山幸代編集：看護実践のための根拠がわかる老年看護技術 第3版、メディカルフレンド社、2015.</p> <p>水谷信子監修：最新老年看護学 2022年版、第4版、日本看護協会出版会、2022.</p> <p>真田弘美、正木治恵編：看護学テキストNiCE 老年看護学技術、改訂第3版、南江堂、2020.</p> <p>松田ひとみ他編：介護予防のためのベストケアリング、マジカルビュー社、2016.</p> <p>武田裕子他編：ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能(1)：解剖生理学、第2版、メディカ出版、2023</p> | | | | | | | | |
| 事前準備 | 成熟期看護学概論、成熟期看護方法1・3・4・5・6、福祉学(特に社会福祉学概論、社会保障制度論)、人体・治療学(人体の物質交換システム等)などで学んだ知識が活用されることから、これらの復習が必要である。 | | | | | | | | |
| 受講要件 | | | | | | | | | |